

(参考資料)  
検証シートの構成

当該基本目標で掲げる数値目標を記載(検証は5年後に行う。27年度の欄は、参考値として、直近で把握できる値を入力)している。

今回は、平成27年度の取組状況に対する効果検証

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (平成27年度)

総合戦略で掲げる基本目標等をそのまま記載している。

**【基本目標】 つくる**

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。  
地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。  
そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

**【基本的方向】**

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業 への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組む、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

指標	基準値	目標値 (H31)	単位	参考値 (H27)	対目標
事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	28,317 *	—
従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	278,415 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

**<概要>**

(1) 評価  
A:十分に達成されている  
B:概ね達成されている  
C:あまり達成されていない  
—:未着手(次年度からの取組)

(2) 検証会議の意見  
A:引き続き、現状の取組を推進すべきである  
B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある  
C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

【主な施策及び重要業績評価指標(KPI)】

① 主な施策とそのKPIをそのまま記載している。

② 平成27年度におけるKPIの進捗と評価を記載している。

主な施策の名称	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (H31)	単位	実績値 (H27)	対目標	評価 (H27)
(1)地域産業の競争力強化(業種横断的取組)							
①新事業・新産業創出の支援	新たなビジネス展開に取り組む事業者数	(H26) 8	50	事業者(5年間)	21	42.0%	A

主な取組内容	具体的な取組の内容
健康・環境分野における企業間・産学間等の事業化支援	ビジネスモデルに資する取組に対し助成するとともに、セミナーやマーケティング調査の支援を行った。 健康分野:新規会員17者増、助成5件。 環境分野:新規会員4者増、助成1件
デザイン等のクリエイティブ産業の育成支援と集積促進	「かごしまデザインアワード」やデザイン関連講座の開催などを通じて、デザイナー等の人材育成や製品等の競争力強化を図ったほか、デザイン・コンテンツ業の企業立地にも取り組んだ。
市が保有する統計・地理情報等のオープンデータ化の推進	28年度からの取組(27年度は、28年度からのデータ公開に向け、本市オープンデータ推進のための指針を定めるとともに、公開可能データの庁内検討を行った。)

③ 主な取組と平成27年度の取組状況を記載している。

**取組状況やKPIの進捗を踏まえた施策全体の評価**

施策の進捗等	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、27年度の事業者が21者で、単年度当たりの目標値(10者)を上回っており、順調に推移している。 27年度の取組状況としては、クリエイティブ産業の育成支援や、オープンデータ推進の指針作成等を行うなど、着実に取り組んでいる。	企業間・産学官等の事業化支援については、28年度からは「食・健康・環境」の分野と異業種との掛け合わせによる新たな事業展開についても柔軟に支援していく。 オープンデータについては、28年度から市ホームページでの公開を開始する。

③ 平成27年度の取組状況の総括を記載している。

④ 平成28年度以降の取組の方向性を記載している。

**検証会議の意見**

KPIについては、新事業・新産業創出の支援に向けて、予定どおり十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。  
なお今後、現在のKPIに加え、施策を通じての商品化や新ビジネス展開などの成果を測るためのKPIについても検討すべきである。

A

⑤ 当該施策に対する検証会議の意見とその評価を記載している。